

(4) ICTの環境整備

●現状

G I G Aスクール構想の推進を受け、本市では令和2年度に小中学校全校に校内LAN等を整備（校内LANの再構築、無線LAN及び充電保管庫の設置）するとともに、児童生徒に1人1台端末を導入した。また令和4年度には、各学校のアクセス回線を1Gbpsの帯域保証に増強するなど通信環境の整備を進めたほか、毎年度一定数の大型モニター等の更新や増設を行っている。

こうした機器整備の進捗度について、令和4年度の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」を見ると、千葉県平均及び全国平均を上回る状況となっている。

	柏市	千葉県	全国
教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数	0.9人	1.0人	0.9人
普通教室の大型提示装置装備率	95.9%	87.6%	88.6%
普通教室の無線LAN整備率	98.8%	95.7%	95.7%
インターネット接続率（1Gbps以上回線）	98.4%	63.6%	66.3%

出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（令和4年度）文部科学省

(4) ICTを活用するための環境の整備

●課題及び方針

G I G Aスクール構想の柱である、1人1台端末及び高速大容量のネットワーク環境について整備が進んでいる状況であるが、端末の導入から4年が経過し、破損や故障、バッテリーの劣化など不具合が散見されるようになり、予備機の差配が難しい状況になって来ている。

一方、本市が市内にある63校の小中学校に対して、端末利活用時のネットワークの体感速度に関する調査を行ったところ53校が回答し、「通信が遅いと感じることがありますか」という質問に対し「ある」と回答した学校が44校、その内「児童生徒から通信が遅いと言われることはありますか」という質問に対し「ある」と回答した学校は36校あった。この結果によれば回線の性能と体感の間に乖離が見られる。

こうしたことから、いわゆる「G I G A第2期（令和6年度から令和10年度）」においては、端末の入れ替え及びネットワークの改善に取り組む必要がある。

(4) ICTを活用するための環境の整備

a 端末について

G I G A 第2期における端末の整備について、国の公立学校情報機器整備事業費補助金により県に造成された、G I G A スクール構想加速化基金を活用する。

同基金を活用した端末の整備について、県は県内の市町村が参加する共同調達会議を設置して共通仕様書を策定し、その仕様書を基に県内の市町村が共同して端末を購入することで、スケールメリットを生かした調達コストの削減を図ることができる。

現在本市では、小学校1年生及び2年生にはタブレット端末(iPad)を配置する一方、小学校3年生以上にはキーボード入力の習熟を図る点からノートパソコン(Chromebook)を配置している。

タブレット端末の配置は、低学年の児童に対する操作の容易さから行ったものであるが、2種類のOSを導入していることによる管理の煩雑さが負担となっている。こうしたことから、G I G A 第2期では、OSを1種類に統一することやキーボードが着脱できることにより、タブレット及びノートパソコンの両方の形態で使用できるモデルの導入を検討する。

また、年数の経過による破損や故障の増加に対し、予備機の差配に苦慮している状況を踏まえ、端末の破損や故障に際しても児童生徒の学びが途切れることがないように、また保守に係る財政的及び事務的コストの軽減を図るため、十分な数の予備機を手当する。

b ネットワークについて

G I G A 端末の活用を支えるネットワークの改善について、令和6年4月に文部科学省が「学校のネットワーク改善ガイドブック」を策定し、学校規模ごとの当面の推奨帯域や改善策が示された。

本市のネットワークは、性能上は十分な帯域を確保しているが、体感調査では改善の余地が見込まれること、今後本格化するデジタル教科書の活用やC B T (Computer Based Testing) の実施など、ネットワークを流れるデータ量の増大に対応する必要があることから、体感調査やネットワークアセスメントの結果を基にした通信機器の調整など、設備の改善を図っていく。